

わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い  
ミュージアム都留からのお知らせ

**特別展** ぎぎょう **義侠の人〜天野開三と品川台場展**

**会期 11月29日(日)まで**

甲州都留郡境村(現都留市境)に生まれ、幕末から明治にかけて、江戸や伊豆など広い地域で多くの事業や社会活動を行い「義侠の人」と称えられた天野開三について、文書や道具などさまざまな資料を通して紹介します。

**【展示内容の紹介】**

○天野鍋(海蔵鍋)  
開三は、嘉永7年(1853)津波で大きな被害を受けた伊豆下田へ、米500俵、鍋176個、布団500枚を送りました。これ



天野鍋

ほどの量の救援物資を送った例はほかになく、下田の人々は「義侠の人 天野海蔵」と呼んでその行為を称えました。このとき送られた鍋は、近隣の商店から急ぎ買い集められたもので、形も大きさもさまざまだったと言われています。この鍋を下田の人々は「天野鍋(海蔵鍋)」と呼びました。

○天野開三愛用のカメラ

開三が愛用したと伝えられるオランダ製のカメラで、品川台場建築の際にも使用されたと言われています。



愛用していたカメラ

写真が日本に伝来した幕末のころに、測量などの実用に供したという話が伝えられています。のちの昭和17年に「写真実用化の元祖」として新聞に取り上げられ、話題となりました。その当時の新聞記事もご覧いただけます。

○種徳館

境の天野家の敷地内にあつた蔵作り2階建ての建物で「日本最初の公民館」とも言われています。1階は板敷き、2階は畳敷きでおよそ80畳の広さがあり、シャンデリアやバルコニーなど、いわゆる「擬洋風建築」と呼ばれる形式となつています。

「種徳館」という名前は、「徳を広く世に施す」という意味で、開三が青少年の心身修養



種徳館(明治末)

や、集会などの場として提供するために建てたとされています。現在は戸沢の森・和みの里に移築され、体験学習施設として利用されています。



種徳館(平成16年)

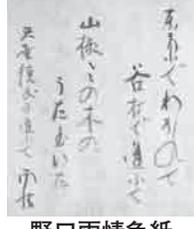


種徳館(現在)

○野口雨情色紙

明治33年(1900)に開三が死去した後も、天野家は郷土の名家として続き、多くの人が訪れ、文人・有名人との交流がありました。

「赤い靴」七つの子などの童謡で知られる野口雨情明治15年(1882)



野口雨情色紙

昭和20年(1945)は、開三の曾孫にあたる天野徳と交流があり、天野家を訪れて色紙や墨跡を残しました。

**開館時間** 午前9時〜午後5時  
**特別展 観覧料**  
一般 600円(420円)  
高・大学生 400円(280円)  
小・中学生 200円(140円)  
※( )内は20名以上の団体料金です。  
※増田誠美術館の観覧料は通常料金(特別展観覧料の半額)です。  
**休館日** 毎週月曜日、第3火曜日、祝日の翌日  
**問合せ** ミュージアム都留☎(45)8008

**増田誠美術館企画展**

☆「増田誠の版画」

〜石版画・特殊版画の世界〜

増田画伯は、旧約聖書やギリシャ神話の題材にした作品やトランプの王様や王妃を擬人化した作品など、数多くの版画や油彩を制作しました。今回は、その中から版画の展示を行います。

**会期** 11月8日(日)まで  
**会場** 増田誠美術館(ふるさと会館2階)  
※11月2日(月)は、文化祭期間中につき臨時開館します。



「休息」

☆「パリジャン百態②」

増田画伯が愛した街パリ。パリに暮らす人々の生活の1コマを描いた油彩画やカフェでお茶を飲みながら描いた版画などを展示します。

**会期** 11月14日(土)〜平成22年2月28日(日)  
**開館時間** 午前9時〜午後4時30分  
**休館日** 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日、年末年始

※11月9日(月)〜13日(金)は展示替えのため休館します。  
**問合せ** ミュージアム都留☎(45)8008